事務事業評価シート（平成22年度）　（ソフト事業）

（A面）

担当課	課長名	記入者
こども未来　課	越川昌信	藤本弘之

1　事務事業の概要　＜Plan①＞

事務事業名	新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
児童館事業	新規 ○ 継続	年度 ○ H20以前	年度 ○ 未定

事務事業の体系

計画掲載	多可町総合計画	（章）2 笑顔でつつむ、あったかいまち	（節）2 笑顔でつつむ、あったかいまち	
		（基本計画）2 笑顔でつつむ、あったかいまち	2 笑顔でつつむ、あったかいまち	
	個別計画	多可町次世代育成支援対策推進行動計		

根拠法令・条例・要綱等	事業区分（該当する区分に「○」）			
多可町児童館条例	○	ソフト事業		施設の維持管理
多可町児童館条例施行規則		義務的事業		内部管理事務
事務事業の具体的内容		建設・整備事業		計画などの策定

児童館の施設管理、行政的な事務及び運営支援	補助金の支給		有	○ 無
	委託		全部委託	一部委託
		○	委託なし(全部直営)	

2　事務事業の目的　＜Plan②＞

対象（働きかける相手・誰が・もの）	受益者（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）
児童館職員	児童館利用者	利用する児童に健全な遊び場を与えて、健康を増進し、情操を豊かにさせる

3　事務事業にかかる予算細目　＜Plan③＞

会計名	一般　会計

細目名	中児童館事業				細目名	みなみ児童館事業				細目名				
予算コード	款	項	目	大事業	予算コード	款	項	目	大事業	予算コード	款	項	目	大事業
	3	2	5	1		3	2	5	2					

4　事務事業実施にかかるコスト　＜Do①＞

事務事業・人員		単位	21年度 決算	22年度 実績(見込)	23 年度 計画	備考（全体事業費など）
総コスト		千円	11,819	11,914	12,585	
コストの内訳	直接事業費	千円	2,375	2,488	3,159	
	所属内間接費	千円	50			
	人件費	千円	9,466	9,466	9,426	
	投入人員　正職員	人/年	0.20	0.20	0.20	
	投入人員　嘱託員	人/年	4.00	4.00	4.00	
財源内訳	国・県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他特定財源	千円	212	196	340	
	一般財源	千円	11,607	11,718	12,245	

5　事務事業の手段＜Plan④＞と活動指標　＜Do②＞

事務事業を構成する業務		手段（事務事業整理シートより）	活動指標（手段の数値化）	単位	21年度 実績	22年度 見込	23年度 目標
1	児童館まつりの調整	中児童館・みなみ児童館事業を行うことで　児童達に健全な遊び場を与えて、その健康を増進し、情操教育を推進する	児童館まつり実行委員会開催	回	3	3	3
2	予算・決算の作成						
3							
4							
5							

（ソフト事業）（B面）

事務事業名［　　児童館事業　　］

6　事務事業の実績　＜Do③＞					
成果指標(意図の数値化)	単位	21年度実績	22年度実績(見込)	23　年度目標	備　考（成果指標の考え方・計算方法）
児童館利用者数	人	8,634	7945	8500	児童館を利用した延べ人数

7　事務事業の事後評価　＜Check＞		（ソフト事業）						
チェック項目			該当項目に「○」					担当の把握している課題
必要性	需要への対応性	住民ニーズは	○	高い		高くない		把握なし
		緊急性は		高い		高くない		
		利用者・対象者数は		増加		減少		横ばい
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		ない		ある		把握なし
	町の関与の必要性	民間の事業(サービス)との競合は		ない		ある		
		国や県の事業(サービス)との重複は		ない		ある		
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は		ない		ある		
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		ない		ある		
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は		ない		ある		把握なし
	連携の可能性	他課で類似の事業は		ない		ある		
		他の事業と統合できる可能性は		ない		ある		あるが困難
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		ない		ある		あるが困難
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は		ない		ある		あるが困難
効率性	手段・プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は		ない		ある		
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		ない		ある		
		ｻｰﾋﾞｽ向上の観点から実施方法を見直す余地は		ない		ある		
		受益者負担を見直す余地は		ない		ある		
有効性	目標の達成度	成果指標が明らかで		ある		ない		
		前年より成果が上がって		いる		いない		横ばい
	持続の可能性	継続することによる効果は		高い		高くない		
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて		いる		いない		測定困難
		事業の休・廃止による住民への影響は		大きい		大きくない		

市場化の可能性							
		既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり	委託化は不可能
		市場化テストの導入について検討する余地がある		市場化テストの導入を検討する余地はない			

改善の可能性				
		1.改善の余地はない		2.改善の余地がややある
		3.改善の余地が多い		4.抜本的な見直しが必要

事務事業評価書

８　改善提案と今後の改善の方向性　＜Action＞児童館事業

職場からの意見（担当者）
（課題の解決についての提案など） ２児童館があるが、設立の経緯などから、見えてくる姿は異なる。中児童館については、集落の集会所としての機能が色濃く残っており、児童厚生員が壁面構成等で雰囲気を出すにも限界がある。みなみ児童館については、施設自体は図書館あり、遊びスペースありと利用者が心地よく使用できる雰囲気がある。両児童館に言えることだが、立地条件により、どうしても遠くの児童の利用が難しくなっている。それを、出張教室等でカバーをしているのだが、限りがある。児童利用施設なので、立地条件による利用者限定がどうしてもつきものなので、克服は難しい。なので、どんな利用者でも心地よく使えるよう体制を整えておくことが、使命であると思う。

担当課長評価									
（課長としてこの事業をどのようにしていきたいか） 現在の拠点施設をベースに、出前教室を充実させて運営していきたい。 中学生のボランティア実践の場としても今後さらに活用していきたい。また、児童相談の場所としても充実させたい。									
所管評価		1．重点的に継続		2．現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続		4．縮小を検討	
		5．統合・連携を検討		6．休止・廃止を検討		7.終了・完了	内部評価	3	

教育長評価								
（教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか） 効率的運営ができるよう内容を見直しながら検討する。								
事業評価		1．重点的に継続		2．現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続		4．縮小を検討
		5．統合・連携を検討		6．休止・廃止を検討		7.終了・完了		

評価委員コメント
出前教室を積極的に行ってほしい。